

《学校教育目標》 求め 鍛え 高め合う

【第2次東白川村教育ビジョン 方向と具体的方策】

～少人数時代に即した、東白川ならではの授業づくり～

- ・生徒一人一人の学力を確実に高める指導
- ・ふるさととのかかわりを大切にしたい、個別探究、課題解決型の指導
- ・学力定着を支える家庭学習の充実

生徒の実態 (よさ:○ 課題:●)

- 仲間と共によりよい見方や考え方、表現を求めて学び合うことができる。
- 伝えたい内容や考えをよりよく表現する工夫を凝らして話すことができる。
- 伝えたい内容を整理したり、筋道立ててまとめたりすることに弱さがある。
- 理解に曖昧さがあってもそのままにしてしまうなど、課題解決に向けてたくましく追究し続ける姿に弱さがある。

願う生徒の姿

『多様な学びを通して、自らの考えを深めたり、思いを積極的に発信したりする姿』

東白川中学校には、「幼い頃から一緒に生活してきたからこそ分かり合える」という支持的風土がある。反面、既成事実にとらわれ、仲間と立場の異なる考えを表出することに躊躇する姿もある。温かい仲間関係の中でありながらも、これからの現代社会をたくましく生き抜くためには、様々な事柄に関心をもち、仲間との関わりの中で粘り強く追究し、自分の思いや考えを深めたり、思いを積極的に発信したりする力が求められる。中学校卒業後、新しい環境で生活する生徒が、どんな場面でも自身の考えを堂々と主張する姿を強く願い、本研究の本質を求めていく。

研究主題

少人数時代に対応した、生徒の表現力を高める授業づくり

研究仮説

少人数時代だからこそ生徒一人一人に手厚く指導できる利点を生かし、一人一人の学習の実態把握と個に応じた手立てを工夫し、3つの見届けを丁寧に行うことにより、一人一人の学習の定着を図ることができる。また、ふるさとにかかわる資料や教材を有効活用しながら、個別探究、課題解決型の指導計画を生かした授業づくりを行うことで、生徒は知的好奇心や探究意欲をもって主体的に活動に取り組み、そこで得た考えや思いを深めたり、積極的に発信したりできる力を身に付けることができる。

研究内容

研究内容(1) 個別探究、課題解決型の指導計画の工夫

- ・生徒一人一人が課題意識をもって主体的に取り組めるトピックの設定
- ・ふるさと教材の開発とふるさと教育年間指導計画の作成

研究内容(2) 一人一人の学力の定着を図る個の実態把握と個に応じた手立ての工夫

- ・付けたい力に応じたレディネステストや単元テストを通じた実態把握とその分析
- ・3つの見届けを意識した指導過程の工夫 (←展開案に3つの見届けの欄を新設)